

# エチゼンクラゲによる

## 被害対策に係る要請

本県の定置網、底建網、刺網漁業では九月下旬から日本海、十月中旬には津軽海峡、太平洋沿岸において、昨年に引き続き大量発生したエチゼンクラゲの大量入網により漁獲減少、漁獲物の品質低下、魚価の低落等、更にはクラゲ除去のための過重労働にも見舞われ、経営が逼迫する事態に陥っている。

このクラゲは、過去に二年以上連続して大量発生したことはなかったとのことであるが、現実には今年も発生し、昨年とは比較にならないほどの大量発生となっており、十二月下旬になってもまだ減少傾向にない状況にある。

また、エチゼンクラゲの発生原因はいまだ説明されておらず、効果的な排除方法もないことから漁業経営においては深刻な問題となっている。



クラゲが大魚に入網している古川漁業部定置網

県漁連、県定置漁業協会では、大戸瀬漁協 古川俊組合長所有の定置漁船に乗船し、クラゲの被害状況について調査した。漁場では、定置網に大量のクラゲが入網しているため網を揚げる事が出来ず、長い魚力ギのようなものを使ってクラゲを網の外へ出す作業が行われた。

古川組合長の話では、前日よりは少ないが三、〇〇〇匹位は入網しているとのことであった。

網の中には魚は殆ど見られず、クラゲを全て排除した時点では、カワハギ、シマダイを合わせて三、四kgしか漁獲されなかった。

古川組合長は、入網しているクラゲの状態が変化してきており、死んでいるクラゲが多くなってきた、徐々に減少することを

の窮状を訴え、クラゲ被害に対する支援策、発生原因の究明、被害防除対策等を要請している。

### エチゼンクラゲに係る 現地被害調査

日 時 平成十五年十一月十一日  
場 所 深浦町大戸瀬  
視察漁業部 古川漁業部

望んでいるとのことであった。

### 木村農林水産大臣政務官

#### クラゲ被害状況調査

日 時 平成十五年十二月四日、五日

場 所 大戸瀬漁協（四日）  
三沢市漁協（五日）

木村農林水産大臣政務官が大量発生しているエチゼンクラゲの被害状況について、十二月四日に大戸瀬漁協、五日に三沢市漁協を訪れ、調査を行った。

四日、深浦町農村環境改善センターで行われたクラゲの被害状況説明会では、大戸瀬漁協の古川俊組合長、県漁連副会長で県定置漁業協会の西崎義三会長らが被害状況を説明した。

この中で古川組合長は「漁師は朝から晩まで網からクラゲを排除する作業に追われ、労力も限界にきている。

情けないのは魚がいるのに獲れないことである」と、

西崎会長は「今はサケ、ブリ漁の最盛期で、クラゲの大量発生は水揚げにも大きく影響している。漁師を勇気づける救済策を



木村政務官に要請書を手渡す西崎会長

「お願いしたい」と訴えた。

これに対し、木村政務官は「漁業者の生活を第一に考え、クラゲの発生原因の究明と併せて早期に支援策を図っていききたい」と述べた。

被害実態のビデオ上映終了後、西崎会長から県漁連・県定置漁業協会の連名でエチゼンクラゲによる被害対策についての要請書が木村政務官に手渡された。

【要請内容】

- 一 定置網漁業者・底建網漁業者・刺網漁業者等、沿岸漁業者の総意をもつて下記のとおり要請いたします。
- 二 被害を受けた漁業者を救済するための支援策を講ずること
- 三 海底に沈んだエチゼンクラゲの遺骸除去のため漁場清掃を実施すること
- 四 エチゼンクラゲの効果的な入網回避方法を開発すること



クラゲが大漁に入網している三沢沖定置網



漁船に乗り込み、現場を視察する木村政務官、澤口組会長

四 入網したエチゼンクラゲの効率的排除方法を開発すること

五 エチゼンクラゲ大量発生の原因を究明し被害防止策を講ずること

六 船上・陸上に揚げたエチゼンクラゲの効率的な処理方法を開発すること

七 エチゼンクラゲの発生・回遊情報の早期伝達体制を確立すること

更に木村政務官は5日、三沢市漁協においてクラゲ被害を調査するため、漁船に乗り込み、三沢市漁協の澤口政仁組合長とともに漁場を視察した。定置網には大量のクラゲが入網しており、魚の姿は見られなかった。

その後、漁民研修センターで行われた漁業関係者との懇談会で木村政務官は「漁場のクラゲを見て、改めて皆さんの深刻さが分かった。視察の結果については直接大臣に伝え、対策を検討していききたい」と述べた。

澤口組会長は「定置網だけでなく、底建網、刺網も同様に被害を受けている。漁業者の生活が成り立つように検討していただきたい」と、百石町漁協の木村民二組合長は「漁業共済の早期支払、沿岸漁業改善資金の優遇緩和等を検討してほしい」と訴えた。

三村申吾県知事及び

上野正蔵県議会議長へ要請

去る十二月十二日、県漁連 植村正治会長、西崎義三副会長、後藤亮丞専務理事、

県定置漁業協会役員が、県に対しクラゲによる被害対策について要請を行った。

植村会長から三村知事へ要請書が手渡され、西崎副会長が「サケ、ブリに大きな期待をかけ秋網を入れたが、クラゲにより全く獲れない状況である。県の財政も厳しいと思うが、低金利の融資をお願いしたい」と訴えた。

これに対し、三村知事は「地元市町村や系統団体などの対応を踏まえながら経営資金に対する利子助成を検討したい」と述べるとともに、国や各県とクラゲに関する生熊、回遊経路についての情報交換をしていく考えを示した。

その後、議長応接室において植村会長から上野県議会議長へ要請書が手渡された。

上野議長は「クラゲ被害は大変な問題になっている。知事、執行部と協議し、対策について検討したい」と述べた。



上野県議会議長に要請書を手渡す植村会長



三村知事に要請書を手渡す植村会長